

ISO/TC 61/SC 14 (環境側面) 分野における規格開発の状況

ISO/TC61/SC14では、環境に関わるプラスチックの試験方法や評価方法の規格の制定・改正が行われている。TC61/SC14はTC61/SC5(物理・化学的性質)傘下のWGであった「生分解性プラスチック」「バイオベースプラスチック」及び「マイクロプラスチック」が分離独立し、2017年にTC61/SC14が設立された。幹事国はドイツとなった。

今では、「用語、分類」「リサイクル」が加わり傘下のWGは5つとなっている。表1にSC14の組織を示す。

表.1 TC61/SC14の傘下のWG

WG	コヒナ	名称
1	イタリア	用語、分類
2	日本	生分解性プラスチック
3	アメリカ	バイオベースプラスチック
4	ドイツ	マイクロプラスチック
5	スウェーデン	リサイクル

なお、WG4及びWG5の正式名は以下のとおりである。

WG4：環境に漏れ出たプラスチック（マイクロプラスチックを含む）の特性評価

WG5：メカニカル及びケミカルリサイクル

TC61の年次会議が毎年開催される。そこでは、ほとんど全てのSC及びWGの会議が開催され、審議が行われる。日本からは毎年多数のメンバーが参加している。

昨年2019年は9月23日～9月27日に中国の成都にてTC61年次会議が開催された。

今年2020年は10月5日～10月9日にスウェーデンのストックホルムにて年次会議が開催される予定であったが、新型コロナウイルス蔓延のため対面会議は中止とあり、代わりに、バーチャル会議が実施される見込みである。

重要な規格開発案件について、以下にWG別に開発状況及び今後の取り組みについて報告する。

1. 用語、分類 (WG 1)

次のプロジェクトがTR（技術報告）として開始された。これは、関係する既存の用語及び新規の用語の定義を規定するものである。

ISO /AWI TR 4763（環境側面—規格化に使用される用語の解析）

<PL: 日本、スウェーデン>

2. 生分解性プラスチック (WG 2)

近年、海洋プラスチックごみの問題と共に、海洋生分解性プラスチックへの興味が高くなっている。海洋におけるプラスチックの生分解性評価に関する規格の開発に重点が置かれている。例えば以下の規格開発が行われている。

ISO/CD 23832（実験室条件での海洋環境への暴露によるプラスチック材料の分解及び崩壊の速度の求め方）<イタリア提案>

ISO/DIS 23977-1, -2（海水に曝されたプラスチック材料の好氣的生分解速度の求め方—第1部：二酸化炭素発生量測定法、—第2部：第2部：密閉した呼吸計における酸素必要量の測定法）<ドイツ提案>

日本も今後海洋における"生分解のガイドライン"を作成、提案する計画である。

成都会議では、WG2関係で初めて中国から次の2つの提案があり、現在NP投票が行われている。

ISO/NP 5412（コンポスト用生分解性プラスチックショッピングバッグ）

ISO/NP 5424（コンポスト可能な飲料用ストロー）

3. バイオベースプラスチック (WG 3)

バイオベースプラスチックの炭素、環境フットプリントに関する規格 (ISO 22526 シリーズ/4パート) の開発が進められている。

各パートの進捗状況は次のとおり。いずれもPLは日本が担当している。

ISO 22526-1 発行済み

ISO 22526-2 発行済み

ISO/FDIS 22526-3 FDIS投票中

ISO/CD 22526-4 CD投票中

4. マイクロプラスチック (WG 4)

ISO/TR 21960が発行となった。

ISO/DTR 21960 (環境中のプラスチック—知見と方法論の最近の状況) <ドイツ提案>

マイクロプラスチックに関しては、TC61/SC14以外のいくつかのTC (専門委員会) でも検討されている。そこで、SC14は他のTC (TC146: 大気、TC147: 水質、TC190: 地盤環境) とリエジンの締結及び合同作業グループの設立を進めている、

また、SC14は、ISO/TMB (技術管理表議会) の直下にマイクロプラスチックに係わる"戦略的調整グループ"の設立を要請した。

5. リサイクル (WG 5)

スウェーデンから提案されたTR 23891 (技術報告書) はCD投票が実施された。

ISO/CD TR 23891 (リサイクル—標準化の必要性)

WG5の範囲はプラスチックのメカニカル (機械的) 及びケミカルリサイクルである。日本はメカニカル及びケミカルリサイクルに関する規格提案を検討しており、今年提案する計画である。

以上